

## [公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

### 5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

#### <事業計画>

教育改善に ICT を利活用する FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動の振興普及を促進・奨励し、優れた授業研究の選考・表彰を通じて大学教育の質の向上を図るため、文部科学省の後援を受けて、国立・公立・私立の大学・短期大学の教員を対象に、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を実施する。

#### <事業の実施結果>

「ICT 利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置し、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に委員会の活動状況を報告する。

#### ICT 利用教育改善発表会運営委員会

2022年(令和4年)5月21日、7月30日、2023年(令和5年)2月3日に平均9名が出席して3回開催し、ICT 利用による教育改善研究発表会における発表募集要項の作成、1次選考と2次選考の運営、Web サイトによる公表を行った。

##### (1) 発表者の募集

前年度の2月3日の運営委員会において発表募集要項を検討し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続きオンライン方式の開催とし、アルカディア市ヶ谷(私学会館)を配信会場するとともに、以下の点について確認を行い、改めた。

- \* 発表募集要項のタイトルは、「教育の質向上を目指す ICT 利用」を改め、「学修者本位の教育と教育の質向上を目指す ICT 利用」とした。
- \* 発表方法は、発表スライド等を作成した上で、発表映像(13分:時間厳守)を事前に事務局に提出し、当日は原則として配信会場からの発表映像配信後に、ネット先からオンラインにて質疑応答すること統一した。

##### (2) 発表者の選考

- ① 5月21日の運営委員会で48件の応募について書類選考を行い、43件についての発表を確定した。
- ② 1次選考は、8月25日(木)にアルカディア市ヶ谷の3会場において、発表者を除き105名が参加し、実施した。発表者は事前に発表映像を提出し、13分間の発表映像を配信した後、質疑を5分間行った。質疑応答は、全員オンラインで実施した。その上で、選考規程にもとづき、選考委員が分担して発表内容及び発表会論文を精査し、以下の基準で1次選考を行った。
  - ※ 教育上の問題解決を図るために、ICT 利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること
  - ※ ICT を利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること
  - ※ 客観的な評価方法により、教育改善の効果が示されていることその結果、2次選考の対象として8件を選考した。

発表内容の詳細は、巻末の2022年度事業報告書の附属明細書【2-5】を参照されたい。

- ③ 2次選考は、9月24日(土)に実施し、選考委員全員で1次選考の発表を収録したビデオ及び発表会論文を精査し、授賞対象を選考した結果、以下の通り、奨励賞1件を決定した。

**2022 年度**  
**ICT 利用による教育改善研究発表会の選考結果**

**1. 発表会の目的**

この発表会は、全国の国立・公立・私立の大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のための ICT 利用による FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質向上を図ることを目的として、1993 年(平成 5 年)より実施しています。

日本の高等教育の向上に資することが極めて期待できる発表に文部科学大臣賞、他の教育分野での対応・展開が期待できる発表に私立大学情報教育協会賞、今後のさらなる発展・展開が期待できる発表に奨励賞を授与し、研究者の教育業績を顕彰します。

**2. 選考の経緯**

選考	実施日	件数
応募		48 件
書類選考	2022 年 5 月 21 日 (土)	43 件選考
1 次選考	2022 年 8 月 25 日 (木)	8 件選考
2 次選考	2022 年 9 月 24 日 (土)	1 件授賞

今年度も引き続きオンラインによる発表会となり、発表者全員に 13 分による発表映像の提出を事前に求め、8 月 25 日に会場から 43 件の研究発表を配信するとともに、質疑は各発表者からオンラインで実施しました。発表会終了後、1 次選考を行い、2 次選考の対象 8 件を選考しました。発表会の視聴参加者は、発表者を除き 105 名(48 大学、賛助会員 4 社)でした。その後、9 月 25 日に 2 次選考を行い、1 次選考の発表収録ビデオ及び発表会論文を精査して、1 件の授賞を決定しました。

**3. 選考結果**

文部科学大臣賞（最優秀賞）	該当なし
私立大学情報教育協会賞（優秀賞）	該当なし
奨励賞	1 件

**4. 授賞**

**【奨励賞】**

「栄養士養成課程における AI と ICT 活用による教育効果の向上について」

大阪夕陽丘学園短期大学 治京 玉記 氏、山崎 明宏 氏

**[授賞理由]**

本研究は、栄養士養成に求められる短期大学生の基礎学力の向上を目指して、入学前教育に AI ドリルを導入し、ログイン履歴の AI 解析(「つまずき判定」)で数学・理科に対する学力の不安解消を行っている。その上で、リメディアル教育(食物基礎科学の数学・化学)に 1 人 1 台の PC 端末を用いたハイフレックス型オンライン授業、クリッカー・チャット・e-ラーニングを活用した双方向型授業、学生同士による TBL 型授業を組み合わせることで、基礎学力の向上が認められている。さらに、栄養士必須専門基礎科目のコアである生化学において、理解度の向上と大学が規定する受験資格喪失者の減少に繋がっている授業改善の取組みである。

これらの取組みは、新入生の基礎学力や理解力低下が多くの大学での課題ともなっており、組織的なアダプティブラーニングを試みた本研究は一つの有力な対応策を提示するものと言えよう。

(3) 選考結果の表彰

表彰は、11月30日の第35回臨時総会で発表者を招待し、文部科学省専門教育課の鈴木 顕企画官臨席の下、本協会向殿会長から、それぞれに奨励賞の楯と副賞(3万円)を授与した。

(4) 授賞論文の公表

本協会の Web サイトで公表した。



左から文部科学省専門教育課の鈴木企画官、受賞者の大阪夕陽丘学園短期大学 治京玉記氏、本協会向殿会長